

平成25年度第1回「スポーツクラブ21ひょうご」芦屋市推進委員会会議要旨

日 時	平成26年2月5日(水) 15:30~17:00
場 所	芦屋市立体育館・青少年センター 3階 第1研修室
出席者	委員長 西田 俊一 副委員長 古津 純子 委員 多田 洋子, 立花 暁夫, 井原 一久 事務局 福岡 憲助教育長, 中村 尚代社会教育部長, 木高 守 スポーツ推進課長, スポーツ推進課(権藤 弘之, 大西 貴和, 木戸秀行, 寺本 三恵子)
会議の公表	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 部分公開 < 非公開・部分公開とした理由 >
傍聴者数	0人

1 開 会

2 あいさつ 西田 俊一 委員長

3 あいさつ 福岡 憲助 教育長

4 「スポーツクラブ21ひょうご」芦屋市推進委員会設置要綱及び事務局組織等規程の改正の連絡 (課名の改正: スポーツ・青少年課からスポーツ推進課へ改正)

5 議 事

- ・委員5名の出席により, 推進委員会要綱第6条第2項の規定に基づき, 推進委員会成立

- ・情報公開条例第19条(保有個人情報の開示義務)の規定により, 議事録公開を確認

6 議 事

委員長: それでは平成24年度事業報告・決算報告, 平成25年度事業計画・予算について事務局から説明していただきます。

事務局: 「スポーツクラブ21ひょうご」平成24年度末基金報告, 資金支出額及び各スポーツクラブの決算報告, 事業報告を資料に基に説明。

平成25年度の事業計画書, 予算書を資料に基づき説明。

多田委員: SC21打出浜は, 資料の平成24年度は事業報告書・決算のとおりです。打出浜は今年度で基金が無くなりますが, 年会費とイベント等の開催時の参加費を集めています。登録団体はそれぞれの団体会費等を集めて活動しているの

で基金が無くなっても大丈夫です。

立花委員： 関連してですが、SC21が発足時の説明が、施設費で800万円、事業費は年に100万円を5年間、助成金がいただけるのでSC21を立ち上げましょうということであった。私の勘違いかわかりませんが、これはあくまで、「5年間の内に会費を取って運営できるようにしなさい」という考えと認識したので、宮川SC21は5年間に使い切らなあかんと思って使いました。基本的にはSC21は会費制で賄えるようなクラブにしなければいけないと思っています。当初、助成金でサッカーゴールを購入したが、10年経つと修理が必要になった。もう助成金が無いので会費で賄わなくてはならず、大変になった。最初に施設を作った時に補修費も含めての会費を考えておかなければならなかったと思いますが、新たに補修費を頂くことは考えられませんか。

委員長： 今は、事業計画・予算の話なので、今の内容はこの後の意見交換時をお願いします。

立花委員： わかりました。事業報告書のとおり事業は行いましたが、宮川SC21は5年間で基金を使用してしまって、今は登録団体等の会費で活動しているという報告です。ただし、他のクラブは基金もまだあるので、その基金を使用しながら事業を行っています。

委員長： 説明不足で申し訳ないです。先に事業報告、決算、平成25年度の事業計画、予算が終了してから、その後、意見交換時にゆっくりと話し合いができたらと思うのですがよろしいでしょうか。それでは、事務局から平成25年度の事業計画、予算についての説明をお願いします。

事務局： 平成25年度予算書、事業計画書を資料に基に説明します。(基金の使途や制限についても説明)

委員長： 事務局からの説明で、質問、意見等ございませんか。当初は5年間で基金を利用し、5年後には自主自立しましょうというルールがその後変更されたのはいつからですか。

事務局： SC21設立時には施設費800万円、事業費100万円を5年間で県はそういう期間を目途で自立していけるであろうという計画であった。残ったお金は基金として残せます。今は細く長く基金を運用していく形で運営しているクラブと、宮川SC21や打出浜SC21のように、ある一定期間で基金を使い切ってしまったというクラブがあるのですが、県からは、その後の手立てとして施設整備の補助金等のようなものは多分無いと思います。

多田委員： 芦屋のSC21は一度に設置されたのではなく、数年間にわたり立ち上がってきたので、まだ基金を多額にもっておられるクラブはあります。ただ、県が5年間を目途に自主自立できるようにとのことだったので、2年目ぐらいから会費を集めればよかったですでしょうが、気が付くのが遅かった。SC21設立

時に私は、この基金はいらないと言ったけれど、半ば強制的に設立させられ、事業も増やし活動してきた。今になって学校からクラブ室も子どもが増えてきているから、クラブ室を学校に返してほしいと言われ、心配したが、今年はどうにかその話はなかったのが安心した。基金で整備したクラブハウスも学校へ返さなくてはならないこともあるので今後の心配もあります。

委員 長： 芦屋は非常に小さな市でSC21が9つある。県でいろんな話を聞いているとそれぞれ特徴があるが、そろって運営している。いろんな問題を教育委員会と推進委員会で考えながら芦屋の9つのSC21をどう推進して芦屋のSC21を盛り上げていくかを話合っていくのが推進委員会の役目だと思います。今言われた、元々はコミスクとして活動して問題は無かったのに、強制的に基金付きでSC21を設立させられ、14年経た今基金を使って無くなってしまったが、まだ自主自立できていないので何とかならないかというお話でしたね。

立花委員： 少し違うのですが、5年間で基金を使ってしまったから、6年目から会費を集めるようになって一応運営はできている。大きなお金を動かすようなことが大変ですということだけです。自立はできています。

委員 長： 5年間の間に活動費を毎年100万円を使ったので、それを会員から集めるということですね。

立花委員： 活動費としてね。

委員 長： まず、会員から会費として集められているかどうか当初に購入していた物の補修費とかの費用を予定していたかどうか。コミスク・SC21を運営している中で、将来像があると思います。県から5年後はSC21を通して地域、コミスクとの関係等、SC21をどういう風に運営するかの計画があったはず。それがどこまでできているかです。SC21主催のイベントや参画するグループや団体が増えたりして活動は問題なく行われている。一方で、お金は年間事業費100万円の補助金で賄っていたが、その100万円が無くなっても活動ができるだけの会費が集められているのかを精査されないと。基金がもらえるから続けられる、もらえないから続けられないとかということではなく、続けられるようにどのような計画を立てるのが重要だと思います。そこはどうですか。

多田委員： 予算書を見て、年間100万円の会費で大事に使わなければならないと思います。

委員 長： 大体、年間会費は1,000円ですか？

立花委員： 年間会費は約30万円ぐらいです。運営費を増やしているので活動はできています。

多田委員： それをどんなふうにするかですが、イベント等の参加費雑収入に入れている。昔はなんでも無料でしたが、今は受益者負担を原則に会費と合わせて運営費

になっているクラブもあります。

事務局：昔は会員制度があり、会費を納められたら会員証を発行していたが、100人単位の会員手続きが大変ということと、会員証の印刷代にお金がかかるということで、現在は会員証を発行しておられるクラブは少ない。

立花委員：宮川SC21みたいに基金が無いとどうしようもないので、1,000円の年会費を集めていますが、ひょっとしたら基金があるから100円や200円の安い会費で済んでいるのではないかと。

委員長：宮川SC21の会費の金額設定は良いと思います。事業計画を作るときに、どれだけの経費が必要か、SC21の基金の使い方のルールがあると思うので、かかる経費を計算し、会費の額を決めなければならないと思うのです。そこがまだできていないクラブがあるのではないかと。もう一度確認していく時期ではないでしょうか。基金はいつか無くなります。それまでに自立できる計画を立ててください。SC21はそのところを理解できていますか。あるSC21を含むコミスクの運営会議に出たのですが、基金についての意見が言えないし、少し発言をすると違和感を感じました。ここで話されている認識が、現場では理解されず、認識されていません。

立花委員：これから活動するには助成金が無いのでお金がいるという現実があるので皆、会費を払う。ただ基金のあるところは、議論しなくても活動していきるので、基金の無くなる時の話は不思議かも知れません。

委員長：お金だけは無いかもしれませんが。各SC21の代表者までは理解してと思いますが、所属する団体代表者や会員にまでは理解されていないのではないですか。そこが問題だと思います。SC21を続けていくのか、コミスクとSC21を一緒にして運営していくのかをもう一度考えないといけないのではないのでしょうか。

多田委員：会員までとなると難しい。

委員長：それは、推進委員会も一緒になって変えていかないといけないと思います。受益者がここを理解していないと、違う方向に進んでしまう。ご苦労と思いますが、それを一緒になって考えて、行政にも協力してもらいながら変えていくことが必要と考えます。

立花委員：言われるとおりに、問題点はスタートに戻りますが、兵庫県の中で芦屋というのはSC21というものを、行政側の指導によって作られたが、すでにコミスクがあって他市より一歩進んでいるところに、SC21ができた。何も無い地域よりも地盤があるところにできて、もっと進んでいなくてはならないところをまだ進んでないということなんだろうね。

コミスクにSC21が共存しているのに、スポーツクラブの会員はまだコミスク活動の一環で、SC21の会員という意識が薄いのは事実だと思います。宮

川SC21は説明をしているので、SC21の傘下とっていると信じているのですが、なかなか難しいと思います。それは課題として、SC21芦屋市連絡協議会で議論が必要だと思います。

委員長： 同じようなやり方で、西宮も芦屋とは違う方法で体育振興会という団体から、スポーツクラブ21へと変えたと聞いています。行政指導で、SC21を設立したかもしれませんが、いつまでもそのようなことを言っても仕方がないので、もう一度考え直して、各クラブの代表者の意見を聞きながら、スポーツクラブの推進を考え直さないといけないと思います。その辺は、井原委員はどうお考えですか。

井原委員： わたくしたちアスロンもtotoの助成金を5年間いただき、基本的には運営がうまく行くまでの立ち上げ資金だということで支援を受けました。SC21の補助金も同じだと思います。5年間で立ち上げてくださいよ。それまで運営がうまく運ぶまでランディングの資金として補助しますというのが趣旨だと思います。そのような意味合いがあるので、資金が無くなったから追加予算を組んで欲しいというのではなく、この資金を利用して受益者負担などで自主運営していくための運営資金だという定義は外してはだめだと思います。もし、それでも運営できなければいろんな選択肢があるわけで、今、私が知っている話で、淡路島のSC21ですとか、クラブの在り方を求めて合併したという話があります。会員を守りながらより良いスポーツの場を与えていくのも一つのやりかたではないかと思うし、そこはクラブの会員のどういうところで役に立てれるのかなということを少し考えていくことでクラブの個性となって行くと思います。あとはクラブの考え方になるのかなと思います。

委員長： 備品等については、学校施設、コミスク、SC21の所有の仕分は整理していただき、受益者負担というものをSC21側も会員それぞれが認識し、もう一度意識改革をすることが必要です。基金が無くなったらお願いするのではなく、その時のために何をすべきかを考え、SC21という組織がしっかりすれば、市へお願いするもの、これは自分たちで行うものが分かってくると思う。そういう組織にしていかないと、ただ単に開放組織でグラウンドや体育館の使用調整だけしているのであれば、SC21の意味がないと思う。コミスクで大丈夫だと思う。コミュニティを利用して、SC21事業を推進していくことを芦屋市は望んでいることだと思う。

事務局： 先ほどの委員長からのお話をもうすこしくわしく説明しますと、西宮市の体育振興会というのは昭和40年代に誕生し、地域スポーツ活動を組織化して体育振興会という地域コミュニティを立ち上げられた。その前に明石では社会教育全般の地域コミュニティを作ろうと行政主体の地域コミュニティという全国で有名な明石コミセンがあります。西宮の体育振興会はスポーツ活動なので、

SC21への変更がうまくいった。明石コミセンの場合は行政主体なので、コミセンとSC21と連携している組織となっています。尼崎の場合は、SC21と、校庭開放委員会と、市民団体の使用登録団体など、この3つが小学校のグラウンド・体育館を使用しています。連携協働があまりうまくいっていないようです。そのため、SC21の設立が遅れたと聞いています。芦屋の場合は、当時の担当部長がコミスクの中にスポーツの分野があるので、それをSC21にしていこうということで各コミスクにご提案されました。ただし、経理面については、県の指導により、当初はスポーツ活動以外は使えないということでコミスクとSC21とを分けていった経過があります。ただ、そうは言いながら地域コミュニティがそれぞれ混乱してるわけでもないし、2つの団体となりますが、一緒に連携（融合）されて進めておられるという経過です。神戸市は学校開放事業から始まっています。そんな状況です。

委員長： 各コミスクの悩み、お金の問題や抱えていて解決できない問題はいっぱいあると思いますが、基本的にはみんなの意識を受益者負担にもっていかないといけないし、そのためにしなくてはならないことや、これからのSC21のあり方等を各SC21の会長はお分かりでしょうが、コミスクの役員や、地域の方や会員が理解していただくことが必要だと思います。そこをきちっとしないと、この会議で話し合っても、内容がSC21全体へ波及しないともったいないと思います。すべてはSC21で活動されている方のためだと思います。運営側が納得していても会員が納得していなかったら何もならない。もう一つは県の施策で芦屋市にSC21を導入するときに、コミスクからスポーツ部分を外したと聞いている。尼崎や西宮の現状をお聞きするとコミスクを外したことでコミスクに属した文化クラブとうまく活動されていると思います。SC21には文化クラブは外さなくてはならないのですか？

事務局： 外すというよりも、初めは文化クラブを入れてはいけなかったと言われましたが、世界を見るとSC21を中心に文化というクラブがあれば、市民活動やいろんな活動がSC21を核に行われているという、むしろ文化クラブをどんどん作って、SC21をすばらしいクラブにしてくださいということで、神戸大学の山口教授らが意見を言われて県の考え方が変わってきたという経過です。

委員長： 基金が無くなっているクラブがあれば、今、説明を受けたことを踏まえて、実際はコミスクとSC21とは分けていないのが現状でしょ。精道SC21の役員に聞くとコミスクとSC21の会議は別れていると聞いたが、他のクラブに聞くと前半はコミスクの会議、後半はSC21の会議で役員は同じというようなクラブもある。これからの10年を考えたときに、基金を文化クラブに使用しないでいくと、組織は統合しても良いのではないか。

多田委員： 打出浜SC21はコミスクとSC21は一緒ではありません。事業もコミス

クで行う事業とSC21で行う事業を分けています。例えば夏祭りはコミスク主催でお金はコミスクで出します。駅伝競走大会はSC21が主催でお金はSC21で出しますが、お互いの事業には協力します。自治体の方々にも両方の事業に協力していただいています。防災とか芦屋市からの事業は、共催ですのでコミスクとSC21とが混ざっていることはあります。文化部も会費を集めて活動しているのでコミスクの活動時にはお金を集めています。

委員長：内容を聞いていても、コミスクとSC21のお金は県から分けなさいと言われてたから分けておられるのですが、組織を分ける必要がありますか。

多田委員：SC21は、県からの会計に関しての指導があるので、コミスクとは一緒にできません。

委員長：コミスクとSC21があり、それを皆さんが納得されて、分けておられることには異論はないが、当初、コミスクに乗せた形のSC21であるとのことであったので、文化活動もSC21で認められるのであれば、そろそろ統合されても良いのではないかと思います。現状の運営体制で良いと言われるのであれば、それでも良いと思います。

多田委員：今年度で打出浜SC21も基金が無くなりました。自主財源で活動することに、ある意味、県からの規制も緩和されると思っています。これからの事業の実施形態を考えるべきだと思っています。

委員長：県の基金が無くなり、自主財源でやるということは、今後クラブの活動内容が県からの規制が無くなり自由になるとのことですね。

立花委員：一番最初から文化クラブもSC21に入っても良いようになっていたら、問題が無かったが、一番最初、SC21の基金を文化活動に使ってはならないことから、宮川SC21の場合は、スポーツイベントはSC21主催で、文化イベントはコミスク事業として行っています。

委員長：SC21のイベントでもコミスクも協力して行い、コミスクのイベントでもSC21が協力して行うのですね。

立花委員：そうです。

委員長：サッカーも野球もあるけれど、コーラスもあるというのが小学校校区での活動だと思うのですが。

立花委員：それを、続けている感じ。

事務局：部長が4時半から退席されますのでご挨拶していただきます。

部長：話をお聞きしていて、立ち上げの時にご苦労された方々が今もなお引き継ぎずっとお世話をしてこられているのだなと思って、お話しをお聞きしておりました。この資料を見ていたらお金がまだ残せていらっしゃるクラブはありますけれども、そのほかはそれなりに必要があって使っておられるわけで、県のやり方は立ち上げまでを支援し、後は自立してねというやりかたをしてきていま

すので、それを覚悟で、先を考えて運営していく必要が生じます。例えばマンションの修繕積立金を積み立てるように、自主財源も少しずつでも積み立てていく方法があると思います。先ほど、委員長もおっしゃっていましたが、コミスク等と供用して備品を使っていることもあるようですので、一つの物を修繕することについても、それぞれがどれぐらいの割合で修理代を負担するのかお互いが話し合い負担するということもあるでしょうし、どこかが全額払うことではないと思ったことと、基金が無くなったクラブが今後どう変わっていくか、先駆的なところなのかなと、まだ基金がある他のクラブの今後の自立の見本になるのかなと感じました。これがNPOであったり、会社組織であれば簡単なことですが、地域コミュニティであるがゆえに難しいと思います。今が岐路なので、自分たちの地域はどういう形で維持できるのか、どういう方向で進むのか頭を抱えておられると思いますが、これまでも苦勞され、運営していただけてきたことに敬意を表し、お聞きしておりました。行政として、なかなか力強くこの方向でいきましょうとも言えなくて大変心苦しいのですが、もともとこの制度を利用して地域でやって行きたい、金銭や場所を提供してもらったら、地域独自でやっていけるよということがあったと思います。たとえばどこかへ出向いてスポーツをしたり、その都度場所を見つけて有料で借りたりしてやることは大変な負担ですが、会場もあり、備品も補助により揃えられているということにもう一度立ち返って確認していただき、今後、皆さんでどう維持していくのかこれから進むべき方向を考えていただきたいと思います。今まで潤沢にお金があった時代は行政が利用者をどんどん後押しができた状態であったと思いますが、もうそういう時代は近々には望めないと思うところがございます。今はなんでも地域、地域と言われ、負担も大きいと思いますが、昔ながらの繋がりの中で、これまで出来ていたことを行政がお金を出してお金で解決し、コミュニティを壊してきたこともありながら、お金が無くなってきたら、今になってそういうところに戻れというのは虫のよいことですが、コミュニティの希薄化への対策としても、みんなで知恵と力を出し合って運営していく、そういったことを、今一度考えていただく時に入ってきたのかなと思います。大変無責任なような言い方になり恐縮ですが、2つのクラブが他のクラブの今後の見本となさせていただきますようご苦勞をおかけしますが、よろしくお願いいたします。

委員長： ありがとうございます。基金の残っているところ、無くなったところ、いろいろな続け方があると思いますが、ここでは解決できないので、行政とも調整が必要だと思います。それだけの基金をつぎ込んでもらったのですから、スポーツを発展させていくというのがSC21の責任ではないのかなと思います。そうは言いながらも、各SC21にオリジナリティーがあっても良いかと思

います。

立花委員： 芦屋市の9クラブに今日の推進委員会の話として、他のクラブにこういう話が推進委員会が出たのでどうしましょうと提案しようと思いますが、どうですか。何故かという、各クラブの独自性があるから、推進委員会としてクラブを推進するために、今のコミスクとSC21の関係であったり、SC21の認識がどうなのかであったり、継続について、また基金が無くなるときの対処法を推進委員会からの問いということで、芦屋市連絡協議会時に意見を聞き、まとめて事務局からこの会に報告します。

委員長： 分かりました。このような話はこの会議でしか出ていないですね。コミスクの会議では出ていないですね。

立花委員： はい。

委員長： コミスクの会議では話が全然違います。まず、どちらの方向に進むかです。コミスクとSC21を風通しを良くしないと、各組織の末端まで理解されていないことが、私にとってはカルチャーショックでした。

古津委員： 委員長がカルチャーショックを受けられた会議のメインは、コミスクの会議だったのですね。

委員長： 僕が出たのは、SC21の関係団体として出席でした。

古津委員： 内容的にはコミスクの内容でしたね。コミスクの会議では協議する内容が違いますのでSC21とは違うと思います。

委員長： コミスクの会議には行政は出ないのですか。

立花委員： コミスク連絡協議会には行政は入られます。

委員長： まずは、各SC21とコミスク連絡協議会からの意見が出ないと、いくら推進委員会で決めても関係ないと思われるし、SC21を代表してこの会議に出ているだけでも、何も言えないようではだめだと思います。

立花委員： すごく言いやすくなっています。考え方が、各SC21がどうのこうのと言うよりも、芦屋市のSC21を推進するためという会議の中で、このような話が出たことで、いろんな意見がもらえるとします。僕は自立するためにどう考えているのかを各クラブから答えをもらいたい。

委員長： 各SC21の悩みがそれぞれにあると思うので、それを吸い上げてもう一度この会議で諮りたいと思います。ただ、学校との関わりもあるので、そのところは、行政の指示、協力も頂かなくてはならないと思います。

事務局： それでは、議題3の平成24年度事業報告・決算報告及び平成25年度事業計画、予算についてご承認いただいたということでよろしいでしょうか。

委員長： はい。

事務局： すでに意見交換にも入っていただいて、討論していただいたとは思いますが、お手元にお配りしております、「スポーツクラブ21ひょうご」育成チェッ

ク一覧表に皆様に討論していただいている、各クラブの現状が書かれています。このことについて、予算とも関連しておりますのでスポーツクラブ21芦屋市連絡協議会での話し合いに役立てていただけたらと思います。

立花委員： 分かりました。

事務局： 委員長，それでよろしいでしょうか。

委員長： はい。

事務局： 全県連絡協議会，阪神南地区連絡協議会，芦屋市連絡協議会を資料に基づいて説明。今年度の全県サミットで，浜風SC21が「スポーツ推進委員とスポーツクラブ21の関わりについて」発表され，好評価であったことを報告。

多田委員： 25年度2月1日に阪神南交流事業が西宮市が当番でキンボール，ソフトバレーボール，少年サッカーの3種目が行われました。来年度は，全県スポーツ大会，阪神南交流フェスティバルとも芦屋市が当番市になるので，次の連絡協議会で話し合いたいと思います。ちなみに，阪神交流フェスティバルでのキンボールは芦屋市が優勝です。少年サッカーは2位でした。

事務局： 以上です。

委員長： 何か質問はありますか。

多田委員： この会には，私たちは2年間芦屋市連絡協議会の代表として会長，副会長職で出席しておりますが，他のクラブの内情まで説明できないので，次回からは，3クラブぐらいをこの会議にお呼びし，そのクラブの現状やこれからの方策などを話し合ったらどうかと思います。

事務局： 補足させていただければ推進委員会の持ち方ですが，総論も大切ですが，クラブの現状を知っていただいて，ご意見をいただくような相談機能を持つ会議であってもいいのかなと思います。先ほどの各SC21代表者に出席していただくことですが，委員は要綱でスポーツクラブからの委員は2名と決められているので，推進委員としてではなく，できましたら3クラブぐらいこの会議に出ていただいて現状を聞き，学識経験者の皆さんからご意見をいただいたり，クラブの運営能力を高めていく，マネジメント能力を高めていく，そんな感じで意見交換をするほうがクラブにとって良いことではないかと思います。

事務局： クラブ現状を話していただき，推進委員会委員としてご意見を頂く場ですので，SC21選出推進委員以外のクラブ代表が良いと思います。そうするとクラブの中身もぐっと良くなると思います。

立花委員： 本来は9クラブ代表者が並んでみんなに聞いていくのが良いが，長時間がかかるので3クラブずつ分けたらどうかということです。

事務局： 何年か前は，全クラブから説明を受けていたが，結局1分か2分での報告で終り，中身を話し合うことができなかったので，今回3クラブずつくらい3年間，詳細に説明していただいて，そこで皆様からご助言をいただけたらプラス

になるのではないかと考えています。

委員長： 役員というのは責任があると思います。ここに来られている連絡協議会の委員が推進委員会の内容を連絡協議会でお話しされ、各クラブの代表者が各クラブに帰って、各クラブの会議等で伝えるということができないようではだめなのではないか。それができないと何のための代表者会議なのかということになる。代表者はわが地域のSC21のために代表者で出てきて、意見を言うことと、話を聞いて帰り、各SC21会員に伝えるという2つのことがあると思います。そういう好循環を作らないとだめだと思う。何時間も時間をさいても、意見が出て、言いつばなしになって無駄になると思います。それができて自立することだと思います。一緒に考えましょう、一緒に進めることが必要ですが、一生懸命考え、意見を出したものを持って帰って伝えて、考えてくれることが大切です。

古津委員： 今日、出された意見を持ち帰って生かそうと思います。

委員長： SC21は良い制度なので、皆で盛り上げるようがんばりましょう。

立花委員： がんばります。

事務局： 今年で皆様の任期がきておりますので、新たな構成になろうかと思っています。2年間お世話になりました。ありがとうございました。最後に古津副会長にご挨拶をお願いいたします。

古津委員： 挨拶

散 会